

斐伊川水系 生態系ネットワークによる
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
地域づくり部会 雲南圏域ワーキング

設立経緯

斐伊川水系は、中国山地から出雲平野へと流れ出る斐伊川や神戸川を始め、ラムサール条約登録湿地の宍道湖・中海など、国際的にも著名な水辺環境に恵まれた流域により構成され、我が国を代表する「ガン類」「ハクチョウ類」「ツル類」「コウノトリ」「トキ」等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有する国内有数の一級水系です。

そこで、地域が持つ潜在的な魅力の「発掘・保全」等により、良好な水辺環境を守りつつ、地域活性化と経済振興を目指し、中海・宍道湖沿岸の5市（米子市、境港市、松江市、出雲市、安来市）を中心に、関係行政機関・団体、専門家から構成される「斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」を平成27年に設立し、専門部会である「生息環境づくり部会」「地域づくり部会」を設置し、大型水鳥類が生息しやすい環境づくりと地域活性化を目指した取り組みを進めてきました。

このたび、平成29年に雲南市で国の特別天然記念物である「コウノトリ」の営巣や繁殖活動が確認されたことを踏まえ、平成29年10月に1市2町（雲南市、奥出雲町、飯南町）等を加え、新たな体制で協議会の活動を再出発することとなりました。

協議会としての活動範囲が広域にわたることから、水系全体での検討を行いつつ、地形的特性や地域のさまざまな特性を踏まえ、継続的に展開できる具体的な活動を検討するために、雲南圏域を中心とした「雲南圏域ワーキング」を設立します。